



會計法草按

大隈

第拾卷号

1292



114
A2615

會計法案草案總說明

此會計法案ハ大体ヨ十一章ニ分チ更ニ之ヲ四十三ヶ條ニ小分セリ此會計法ハ現今行
ハルハ所ノ會計法トハ全ク性質ヲ異ニセリ抑モ現行會計法ハ明治十五年一月ニ制定

セオレタルモノニシテ爾來我財務上ノ行政ハ豫算條規出納規則等ノ發布ニヨリ著ル

シク變革進歩シタルヲ以テ今日ニ在テハ現行會計法中ノ箇條ハ多クハ空文ニ屬セリ

殊ニ現行會計法ハ會計ノ基礎ヲ定ムル所ノ根源法トシテ考フルヨリモ寧ロ會計上ノ

事務手續ヲ定ムル所ノ命令規則ノ部類ニ屬スルヲ以テ今日ニ於テハ如何ニ修正ヲ加

フルトモ到底之ヲ用ユルコト能ハザルナリ今此會計法案ハ專ラ會計ノ原則ニ係ル箇

條ノミヲ掲ゲ其細則ハ別ニ之ヲ定メントスルモノナリ

此會計法案中ニ掲グル箇條ハ既ニ現行法中ニ存スルモノアリト雖モ多クハ現行法ノ

緩慢ニ流レタルヲ嚴ニシ若クハ未ダ現行法中ニ備ハラザル所ノモノヲ新ニ加ヘタル

モノナリ今其重モナルモノヲ擧グレバ

第一 隱密資金及隱密財産ノ禁令ヲ嚴ニシ以テ官金及官有財産ヲ私スルノ弊習ヲ

大正十一年四月
隈傳奇贈

杜絶シタルガ如キ(本法第三條)

第二 法律ニ明文ナキ賦金歩合金賦役等ヲ課スルノ禁令ヲ明ニシ租税ト手数料トノ別ヲ定メタル如キ(本法第四條)

第三 豫算書及決算書ヲ帝國議會ニ提出スルノ期限及其他會計上ニ關スル議會ト政府トノ關係ヲ定メタルガ如キ(本法第五條第十條第十三條第二十一條第三十一條)

第四 豫備金支出ノ方法ヲ明ニシ併ニ歳入不足補充ノ方法ヲ定メタルガ如キ(第八條第九條第十四條)

第五 歳入金納入ニ付義務解除ノ方法ヲ明ニシ併テ右納入金檢證官吏ノ制ヲ設ケ納入ノ檢束ヲ嚴ニセル如キ(本法第十二條)

第六 仕拂命令發行ノ方法ヲ嚴ニシ而テ現金前渡ノ方法ニ餘地ヲ與ヘタル如キ(本法第十七條第十八條第十九條)

第七 年度開始前ニ係ル支出ノ方法ヲ定メタルガ如キ(本法第二十條)

第八 定額繰越ニ制限ヲ設ケ及定額戻入ヲ嚴ニシタル如キ(本法第二十四條第二

十五條第二十七條)

第九 債主權消滅ノ期限ヲ定メタルガ如キ(本法第二十八條第三十條)

第十 官有財産ノ賣却讓與及政府ノ工事及物品取引ノ取締ヲ嚴ニシタル如キ(本法第三十一條第三十二條第三十三條)

第十一 金錢及物品ヲ取扱フ所ノ官吏ノ責任身元保證ノ制ヲ設ケタルガ如キ(本法第三十四條第三十五條第三十六條)

第十二 仕拂命令官ト現金取扱官トノ職務區分ヲ嚴ニシ又歳入出ノ事務ニ關係スル官吏ノ責任ヲ明ニシタルガ如キ(本法第三十七條第三十八條)

第十三 特別會計ノ基礎ヲ置キタルガ如キ(本法第三十九條)

第十四 國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ委託スルヲ明ニシタルガ如キ(本法第四十條)

以上是ナリ

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入及歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度九月三十日マデニ悉皆完結スベシ

○説明 本條第一項ハ政府ノ會計ハ必ズ十二ヶ月ヲ以テ一期ト爲スベキヲ規定シタルモノニシテ現今ノ制ト異ナル所ナシ

本條第二項ハ一會計年度ノ會計ヲ整理スベキ猶豫期限ヲ定メタルモノニシテ現今ノ制ニ比スレバ三ヶ月ヲ短縮シ六ヶ月ト爲セリ○本項ニ「九月三十日マデニ云々」トアルハ國庫ノ出納ハ一時ニ閉鎖シ得ベキニアラズ先ヅ地方ノ小金庫ヨリ漸次ニ閉鎖シ此日ニ至テ中央金庫ヲ閉鎖スルノ順序ナルヲ以テ其意ヲ含マセタルナリ

第二條 租稅及其他一切ノ財源ヨリ收納スルモノヲ歳入トシ收稅費其他一切ノ經費トシテ仕拂フモノヲ歳出トシ歳入歳出ハ總テ一般ノ歳計ニ編入スベシ

各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ノ仕拂ニ充テ又各年度ニ屬スベキ收入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ノ仕拂ニ充ルコトヲ得ズ

○説明 本條第一項ハ歳入ト歳出トノ成立ヲ明ニシ歳入出共ニ悉皆歳計ニ掲

ゲ一モ洩スベカラザルコトヲ定メタルナリ○本項ニ「收稅費其他云々」トアリ殊更ニ收稅費ヲ掲出シタルハ豫算調製上收稅費ヲ歳入中ヨリ引去リ單ニ歳入ノ純計ノミヲ示スノ計算アリ此計算ハ甚ダ弊アルヲ以テ本法ニ於テハ此計算ニ據ラズ歳入出ノ總計ヲ豫算ニ掲グルコトヲ明ニセンガ爲ナリ

本條第二項ハ甲乙兩年度ノ會計ヲ混同スベカラザルコトヲ定メタルモノナリ

第三條 名義ノ如何ヲ問ハズ法律ヲ以テ定メラレザル特別ノ資金ヲ所管スルヲ得ズ

第四條 名義ノ如何ヲ問ハズ法律ノ効力ニ據ラズシテ租稅賦役ヲ課スルヲ得ズ但手數料ノ類ハ命令ヲ以テ之ヲ課スルコトヲ得

○説明 本條ニ租稅トアルハ一般國民ノ義務トシテ課スル所ノ金錢物品ヲ云

ヒ賦役トアルハ一般國民ノ義務トシテ課スル所ノ勞力ヲ云フ又手數料トアルハ版權登錄料、商標登錄料、海外旅行券手數料、博覽會入場料等政府ガ別ニ強迫スルニアラズシテ或ル人民ニ對シ或ル手數ヲナシタルガ爲メニ收入スル所ノモノヲ云フ

第二章 豫算

第五條 政府ハ歳入歳出ノ總豫算書ヲ前年度十二月一日マデニ帝國議會ニ提出スベシ

○説明 本條豫算書提出ヨリ年度開始マデ中間四ヶ月ノ餘裕ヲ存ス帝國議會ハ此四ヶ月間ニ於テ豫算ヲ議定シ得ベキ見込ナリ

第六條 歳入歳出ノ總豫算書ニハ左ノ文書ヲ添附スベシ

第一 各省ノ豫定經費要求書

第二 其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書

○説明 各省ノ豫定經費要求書トハ各省ニ於テ毎年度ニ要スル經費額ヲ豫算シタル計算書ナリ此計算書ヲ集合シテ大藏省ハ總豫算書ヲ作ルナリ

故ニ總豫算ノ明細内譯ヲ見ル爲メ此要求書ノ提出ヲ必用トス
 其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書トハ例セバ二十三
 年十月ニ帝國議會ガ會合スルモノトセバ二十三年三月三十一日ニ終
 リタル會計年度ハ即チ二十二年度ナリ此年度ハ二十三年九月三十日
 ヲ以テ出納ヲ閉鎖シタルモノナレバ此年度ノ歳入出計算ハ議會ガ二
 十四年度(二十三年度ハ現ニ開キアル年度ナリ)ノ豫算ヲ議スルニツ
 キ比準ヲ取ル爲メ最モ必用ナリトス而メ此二十二年度ノ決算ハ尙ホ
 二年餘ヲ經ザレバ調製濟トナラザルヲ以テ該年度ノ總計算書ヲ作リ
 之ヲ提出スルナリ此總計算書ハ國庫ノ帳簿ニヨリ歳入出ノ現計ヲ揭
 グルモノナレバ決算書ノ計算トハ素ヨリ増減アルベキモ大ナル差異
 ハナキモノトス

第七條 總豫算書ハ之ヲ欸項ニ分ツ

帝國議會ニ於テハ政府ノ定ムル所ノ欸項ニ依リ更ニ之ヲ分合スルコトヲ得
 ス

○説明 第一項ハ豫算書ノ常ニ一定ノ式ニ依ルベキヲ示シ第二項ハ政府定ム

ル所ノ豫算科目ハ帝國議會ヲシテ恣ニ變更セシメザルノ意ヲ示ス

第八條 豫算定額ノ避クベカラザル不足ヲ補充スル爲メニ豫備金ヲ置キ之ヲ左ノ二
 項ニ分ツ

第一 憲法上ノ權利ニ基キ又ハ法律ノ結果ニ由リ又ハ政府ノ義務ニ屬スル經費ノ
 不足ヲ支辨スベキ第一豫備金

第二 豫期スルヲ得ザル必要ノ經費ヲ支辨スベキ第二豫備金

第九條 第一豫備金ノ支出ハ大藏大臣之ヲ定メ第二豫備金ノ支出ハ勅令ヲ以テ之ヲ
 定ム

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタル費途ハ年度經過後ノ帝國議會開會ニ於テ其承諾ヲ
 求ムベシ

第三章 收入

第十一條 各年度ノ歳入ハ現ニ有効ナル法律命令ニ從ヒ之ヲ徵收スベシ

第十二條 歳入金ヲ金庫ニ納入スルハ金庫ハ其目的ヲ記入シタル別符附ノ領收證

ヲ發スベシ

右ノ領收證ハ納人ノ政府ニ對スル義務ヲ解除スル證書トナルモノトス但右領收證ハ係リ官吏ニ於テ別符ヲ切離シ檢印ヲナスニ非ザレバ其効ヲ有セズ

○説明

本條ハ納人ノ義務解除ノ方法ヲ定メタルモノナリ○別符附ノ領收證トハ出納上ノ用語ニシテ數枚連續シ割印ヲ以テ偽造ヲ防キ渡人受取人雙方ニ各一枚ヲ留メ置ク様ニ作りタル證書ナリ

本條第二項但書係リ官吏トハ右但書ノ職務ヲ行フ爲メ置カレタル官吏ト云フコニシテ此官吏ハ則チ歲入金ノ賦課ヲ掌ル所ノモノナリ抑モ納人ノ義務ハ歲入ヲ賦課シタルモノニ於テ納人ハ果シテ自己ガ賦課シタル通り相違ナク現金ヲ金庫ニ納入シタルヤヲ認メ初メテ解除ヲ與フルモノナリ故ニ本條第二項但書ノ手續ヲ要ス且又政府ガ單ニ金庫ノ報告ノミニ依頼スルトキハ金庫ガ告グルニ實ヲ以テセザルトキ恐ルベキ弊ヲ生ズベシ故ニ係リ官吏ノ報告ト金庫ノ報告ト兩様ノ報告ニヨリ其弊ヲ防ガントスルナリ

第十三條

他ニ法律ヲ以テ定メタルモノ、外歲入未納金其他政府ニ對スル負債ノ全部又ハ一部分ノ棄捐若クハ延納許可ヲ要スルモハ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ年度經過後ノ帝國議會開會ニ於テ之ヲ報告スベシ

○説明

法律ヲ以テ棄捐若クハ延納ノ事ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニヨル其法律ノ規定ナキモノハ必ズ一々勅裁ヲ經テ處分シ後ニ之ヲ帝國議會ニ報告スルモノトシ其事ノ濫リニ行ハレザル様ニ爲シタルモノナリ

第四章 支出

第十四條

毎年度各省ノ經費ニ充ル所ノ定額ハ政府ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スベシ但天災其他臨時事變ノ爲メ歲入徵收高ノ豫算ニ達セズ若クハ豫算外臨時支出ノ多カリシ爲メニ豫備金ニ不足ヲ生ジタルトキハ一時大藏省證券ヲ發行シテ其不足ヲ補フコトヲ得

○説明

本條ニ各省トノミアリテ閣院廳等ノ名稱ナシ之ハ此等諸官廳ノ經費ハ自今大藏省ニ於テ直管シ該省ノ豫算ニ編入スルノ見込ナルヲ以テナリ

第十五條 各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル各項ノ定額ニ超過シテ經費ヲ使用スルヲ得ズ

各省大臣ハ豫算書ヲ以テ定メタル目的ノ外ニ經費ヲ使用シ又ハ豫算書ニ特ニ許可スルモノヲ除クノ外各項ノ定額ヲ彼此流用スルコトヲ得ズ

各省大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ以テ經費ニ差繼キ使用スルコトヲ得ズ

○説明 本條ニ各項ノ定額トアル各項トハ第七條ニ於テ説明セル總豫算書ノ

科目即チ議決科目ヲ云フナリ

本條第三項ニ經費ニ差繼トアル差繼トハ出納上ノ用語ニシテ例セバ

破損シタル椅卓ヲ賣却シ其代金ハ歳入ニ編入シテ國庫ニ納ムベキヲ

納メズシテ之ヲ以テ直ニ椅卓ヲ新調スル如キヲ云フ

第十六條 各省大臣ハ土地家屋ノ借入及特ニ法律勅令ヲ以テ許可セラレタル場合ヲ

除クノ外ハ一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルベキ工事及物品賣買貸借ノ契約ヲ

ナスヲ得ズ

○説明 一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルベキ契約ヲ爲ストハ例セバ某官

廳ガ某鑛山ト十ヶ年間毎年何百噸ノ石炭ヲ買入ルノ契約ヲ結ブガ如

キヲ云フ總テ如此契約ハ一年毎ニ取結バシメテ事務上差支ナキノミ

ナラズ會計上ノ弊少ク且ツ豫算ハ通常一年度毎ニ定額ヲ許可スルノ

精神ナルヲ以テ本條ノ制限ヲ設ケタルナリ

土地家屋ノ借入ハ永期ノ契約ニ非レバ實際不便且不利益ナルヲ以テ

特ニ數年ニ跨ルヲ許ス

恩給ヲ附與スル如キ終身官ヲ任命スル如キ其他事業ノ大ナルモノハ

經費ノ數年ニ跨ルモノ多シト雖モ之レ等ハ法律ノ規定アルヲ以テ差

支ナキナリ

第十七條 各省大臣ハ其所管經費ヲ使用スル爲メ國庫ニ向ヒテ仕拂ノ命令ヲ發スベ

シ

○説明 所管經費トハ各省大臣ノ權限ニ屬スル事務ノ費用ヲ云フ

仕拂ノ命令ヲ發ストハ各省大臣ガ一箇人ニ向テ仕拂ヲ爲ストキ金若

干何々ノ爲ニ何ノ誰ヘ仕拂フベキ旨ヲ國庫ニ命ズルナリ蓋シ各省大

臣ハ豫算ヲ以テ毎年其使用シ得ベキ定額ヲ附與セラル、ト雖モ現金
ハ一切國庫ノ所管ニ屬シ各省大臣ノ手モトニ在ラザルヲ以テ入用ノ
都度命令ヲ以テ仕拂ヲ爲スナリ

第十八條 國庫ハ法律規則ニ反スル仕拂ノ命令ニ對シテ仕拂ヲナスヲ得ズ

第十九條 各省大臣ハ直接ニ政府ノ正當ナル債主若クハ代理人ノ爲メニスルニ非ザ
レバ仕拂ノ命令ヲ發スルコトヲ得ズ

左ノ諸項ニ係ル經費ハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲナスベキ命令ヲ發スルコトヲ得

第一 軍隊及ビ艦隊ニ屬スル經費

第二 在外各廳ノ經費

第三 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲナス經費

第四 運輸通信ノ便少キ内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 各官衙ノ廳中常用雜費ニシテ一ケ年ノ費額五百圓ニ滿ザルモノ

第六 場所ノ一定セザル事務所ノ經費

第七 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但一主任官ニ付キ三千圓マデヲ限

ル

○説明

本條第二項ノ現金前渡云々トハ既ニ第十七條ニ於テ説明セル如ク現
金ノ仕拂ハ總テ國庫ガ直接ニ取扱フノ本則ナレトモ本條第二項ノ第一
ヨリ第七ニ至ル場合ハ國庫ニ於テ取扱ヲ爲サントスルトモハ反テ費用
ヲ要スルコト多キヲ以テ豫メ概算ヲ以テ現金ヲ主任官吏ニ交付シ仕拂
濟ノ後チ決算ヲ爲サシムルナリ此現金ノ交付ヲ受クル所ノ官吏ハ素
ヨリ政府ノ正當ナル債主ニ非ザレトモ國庫ヨリ現金ヲ拂出スノ手續ハ
同様ナルヲ以テ國庫ハ各省大臣ノ命令アルニアラザレバ拂渡サマル
ナリ

本條第二項ノ第五ニ常用雜費トアルハ官吏ノ俸給等ハ含マズ單ニ日
用ノ雜費ヲ云フナリ其金額ヲ五百圓ト定メタルハ現金ヲ交付スルノ
危險ト出納ノ費用トヲ參酌シテ算出セルナリ○同第六ハ測量等ノ爲
メ臨時ニ設ケタル出張所ニシテ時々場所ヲ移轉スルカ爲メ出納所ヲ
シテ仕拂ヲ爲サシムルヲ不便トスルモノナリ○同第七ハ各廳ニ於テ

特別ノ事情ニヨリ請負ヲ以テ工事ヲ爲サシメズシテ自ラ技師ヲ雇ヒ工夫ヲ使役シテ工事ニ從事スルモハ日々ノ賃錢等小口ノ仕拂多キヲ以テ之ガ爲メ一々國庫ニ向テ仕拂ノ命令ヲ發スルハ其煩ニ堪ヘズ故ニ主任官ヲ定メ此者ニ責任ヲ負ハシメ現金ヲ交付シ仕拂濟ノ後決算ヲ爲サシムルナリ其金額ヲ三千圓ト定メタルハ各國ノ規則ト我國ノ事情トヲ參酌シテ算出シタルナリ

第二十條 前條第一第二第三第四ノ經費中必要止ムヲ得サルモノニ限り年度開始前六ヶ月以内ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得但其年度豫算決定前ニ在リテハ恒例ニ係ル經費及法律ニ據リ仕拂フベキ經費ノ外命令スルヲ得ス

○説明 本條ハ航海中新年度ニ移ルモ若クハ廻金ニ數ヶ月ヲ要シ若クハ氷雪ノ爲メ冬期交通ヲ絶ツ如キ場合ニ於テ必用トス

第五章 決算

第二十一條 歳入歳出ノ總決算書ハ會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ之ヲ帝國議會ノ通常會ニ提出スベシ

第二十二條 歳入歳出ノ總決算書ニハ左ノ文書ヲ添附スベシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 官有財産計算書

第四 特別會計計算書

第六章 歳入残餘、定額繰越、年度後收支、定額戻入、及期滿免除

第二十三條 各年度ニ於テ歳入ニ殘餘アルモハ其翌年度ノ歳入ニ編入スベシ

○説明 歳入ニ殘餘云云トハ歳入ヲ以テ悉皆歳出ヲ支辨シ尙ホ殘餘ヲ生ジタル場合ナリ

第二十四條 一年度内ニ竣功スベキ工事又ハ兵器ノ製作ニシテ避クベカラザル事故ノ爲メニ遅延シテ年度内ニ支出ヲ終ラザリシ經費額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルヲ得

○説明 支出ヲ終ラザリシ云云トハ債主ニ對シ負債ノ精算ヲナシ仕拂ノ命令ヲ國庫ニ向テ發スル手續ヲ終了セザリシヲ云フ

第二十五條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事又ハ兵器ノ製作ニシテ其定額ヲ毎年度ノ豫算ニ於テ許可スルモノハ毎年度ノ使用殘額ヲ竣功豫算ノ年度マデ順次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十六條 出納ノ閉鎖シタル年度ニ屬スル收入ヲ徵收シタルトキハ其徵收シタル現年度ノ歳入ニ編入スベシ

各年度ニ於テ契約濟トナリタル經費ニシテ支出ヲ命令スベキ期限内ニ命令シ能ハサリシモノハ支出年度ノ歳出トナスヘシ

第二十七條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納及一切ノ豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ編入スベシ但法律命令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

○説明 豫算外ノ收入トハ盜難辨償金等ノ如キ豫算ニハ見積ラザルモ正當ニ政府ニ所屬スル收入ヲ云フナリ○前金渡トハ本法第三十三條但書ノ場合ノ如ク未ダ事ノ出來上ラザル前ニ仕拂ヲ爲スモノヲ云フ○概算渡トハ經費ノ額精密ニ豫定シ難キヲ以テ凡ソノ見積リヲ以テ現金ヲ

渡シ置キ後ニ精算ヲ爲サシムルモノヲ云フ○繰替拂トハ例セバ在外公館ニ於テ本邦ノ或官廳ノ依頼ニヨリ物品ヲ買ヒ入ル、トキハ一時右公館ノ定額ヲ以テ仕拂ヲ爲シ追テ右官廳ヨリ該公館ニ代金ヲ拂戻ス如キヲ云フ○定額ニ戻入ルトハ右前金渡概算渡繰替拂ヲ爲ストキ一旦定額ヨリ拂出スモ前金ノ不用トナリ又ハ精算ノ上殘餘アリ又拂戻ノ爲メ返納金アルトキハ原ノ定額ニ組入レ更ニ他ノ費用ニ供スルコトヲ得セシムルヲ云フ

前金渡概算渡繰替拂ハ會計上弊ヲ生ジ易ク又定額戻入ハ其手續煩ハシキヲ以テ特ニ法律命令ニヨリ定メラレタル場合ニ限り之ヲ許スナリ

第二十八條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經過後滿五ケ年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若シクハ仕拂ノ請求ヲナササルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其負債義務ヲ免ルモノトス但特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニ依ル

○説明 本條ニアル支出トハ仕拂命令ヲ發スルマテノ手續ヲ云ヒ仕拂トハ命

令ニ對シ現金ヲ交付スルヲ云フ○本條ニ定メタル期滿免除ノ期限ハ各國會計法ニ定ムル所ヲ參酌ス○本條但書特別ノ法律トハ現行法令中ニ在テハ郵便條例第二百二十五條第二百二十六條第二百二十七條第四百十七條官吏恩給令第二十六條陸軍及海軍恩給令第八條ノ二項整理公債條例第十四條海軍公債條例第九條新舊公債證書條例第五條第五節大藏省證券條例第八條等ヲ云フ

第二十九條 政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ダラレ支出若クハ仕拂ノ請求ヲナス能ハ

ザルハ前條ヲ適用セズ但其事故終リタルハ其時日ヨリ起算シテ仍前條ニ依ル

第三十條 政府ニ納ムベキ收入金ニシテ其所屬年度經過後滿五ケ年内ニ納入ノ告知督促ヲ受ザルモノハ納入ノ義務ヲ免ルベシ但特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニ依ル

○説明 本條但書特別ノ法律トハ現行法令中ニ在テハ地租條例第二十五條ノ如キヲ云フ

第七章 官有財産ノ賣却讓與

第三十一條 官有財産ノ賣却讓與及交換ハ帝國議會ノ承諾ヲ經ベシ

第八章 政府ノ工事及物品ノ賣買貸借

第三十二條 他ニ法律ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物品ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スベシ但左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セズ隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ベシ

第一 一人ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、ハ

第二 秘密ニスベキ事情アルト要スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、ハ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキハ

第四 特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルハ

第五 特別ノ技術家ニ屬スル美術工藝品及機械ヲ買入ル、ハ

第六 土地家屋ヲ買入レ又ハ借入ル、ニ當リ特別ノ狀況ニ由リ競争ニ付シ難キハ

第七 競争ニ付スルモ競争者無キハ又ハ競争者アルモ其價格政府ニ於テ豫定シ

タル制限ニ達セザルル但此場合ニ於テハ競争ニ付スル爲メ豫メ定メタル
箇條及價格ノ制限ヲ變更シテ政府ノ利益ヲ傷フコトヲ得ズ

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度内五百圓ヲ超エザル工事又ハ物品ノ買入借入
ノ契約ヲ爲スルル

第九 同一ノ契約者ニ對シ一年度内見積價格貳百圓ヲ超エザル動産ヲ賣拂フル
第十 毎年ノ見積收入百圓ヲ超エザル土地家屋及他ノ不動産ヲ六ヶ年以内ノ年
限ニテ貸付ルル

第十一 軍馬ヲ買入ル、ル

第十二 試験ノ爲メニ工作製造ヲ命ジ又ハ物品ヲ買入ル、ル

第十三 慈惠ノ爲メニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役シ及其生産又ハ製造物品ヲ
直接ニ買入ル、ル

第十四 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、ル及政府ノ設立ニ
係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ル、ル

第十五 囚徒ノ製造物品及政府ノ設立ニ係ル農工業場ノ生産又ハ製造物品ヲ

賣拂フル

○説明 本條ニ他ニ法律云々トアルハ徵發令公用土地買上規則ノ類ヲ云フ○
隨意ノ約定トアルハ相對ニテ取極メヲ爲スヲ云フ

本條第四特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的云々トハ物品ニヨリ生産製
造ノ場所ニ限アルモノ又ハ一般ニ生産製造スル物品ニテモ使用ノ目
的ニヨリ或地方ニ産出シ又ハ或製造所ニ於テ作レルモノヲ最モ適當
トスルモノヲ云フ

本條第五ハ精巧ノ美術工藝品及機械ニシテ或技術家ニ注文スルニア
ラザレバ出來ザルモノヲ云フ

本條第六ノ特別ノ狀況トハ位地廣狹等ヲ云フ

本條第八第九第十ハ金額小ニシテ競争ノ手續ニヨルトキハ反テ費用
多クシテ利益少ナキ場合ナリ○第八ハ五百圓以上ノ經費ハ皆ナ競争
ニ付スベキモノナリ假令ヒ種々ノ經費ニテモ合シテ五百圓ニ上ルモ
ノヲ同年度内ニ同一ノ契約者ニ請負ハシメントスルトキハ必ず競争

ニ付セザルベカラズト云フコトヲ定メタルモノナリ○第九ハ貳百圓以上ノ價格アル動産ノ賣拂ハ皆ナ競争ニ付セザルベカラズ假令ヒ種々ノ動産ニテモ同年度内ニ合シテ貳百圓ニ上ルモノヲ同年度内ニ同一ノ契約者ニ賣拂ハントスルキハ必ズ競争ニ付セザルベカラズト云フコトヲ定メタルモノナリ○第十見積收入トハ土地家屋其他不動産ヲ貸付ルニヨリ生ズル貸料等ヲ云フ

本條第十五ハ購買者ノ求ニ應ジ商賣品ヲ賣捌ノ場合ニシテ素ヨリ競争ニ付スベカラザル場合ナリ

第三十三條 工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ前拂ヲ行フベカラズ但前條第十三項ノ場合若クハ信用確實ナル商人商社ノ習慣トシテ前金ヲ受取ラザレバ工事或ハ物品供給ヲ爲サマルモノト約定ヲナスル若クハ軍艦兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルキハ此限ニアラズ

第九章 會計官吏

第三十四條 政府ニ屬スル金錢ノ出納若クハ物品ノ出入ヲ掌ル所ノ官吏ハ其金錢若

クハ物品ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クベシ

第三十五條 前條ノ官吏其金錢若クハ物品ヲ失ヒ又ハ盜レタル場合ニ於テ其保管上自己ノ過失ナク相當ノ注意ヲ盡シテ避ケ難キ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受ルニ非ザレバ其負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ズ

第三十六條 金錢ノ出納又ハ物品ノ出入ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ムベシ

身元保證金ヲ納ムベキ官吏ハ其手續ヲ爲シタル後ニアラザレバ職ニ就クコトヲ得ズ

○説明

第三十七條 仕拂命令官トハ國庫ニ向テ仕拂ノ命令ヲ發スルノ權ヲ有スル官吏ニシテ各省大臣又ハ各省大臣ヨリ仕拂命令發行權ノ分任ヲ受ケタル官吏ヲ云フ

財務行政官トハ間接又ハ直接ニ歳入出ノ事務ヲ取扱フ官吏ニシテ現今ノ制ニヨレバ各會計主務官北海道廳長官府縣知事稅關長郡區長等ヲ云フ

右仕拂命令官及財務行政官ハ自ラ仕拂ノ命令ヲ發シ若クハ歳入出ノ事務ヲ取扱フモ現金ハ少シモ取扱フコトヲ許サズ其現金ヲ取扱フ官吏ハ第三十四條第三十五條第三十六條及第三十九條ノ檢束ヲ受クル所ノ官吏ニ限ルナリ此官吏ハ他ノ命ヲ受ケテ現金ヲ收支スルノミニシテ少シモ自働ノカナキモノナリ斯ク歳入出ノ事務ヲ扱フ官吏ト現金ヲ扱フ官吏トヲ全ク區分シタルハ會計上ノ檢束ニ最モ必用ナリトス本條ニ物品ノ出入ヲ掌ル所ノ官吏ノ職務ヲ兼行スルコトヲ禁ゼザルモノハ物品會計ノ事タル現金ノ會計トハ大ニ事情ヲ異ニスル所アリ現金會計ノ規則ト全ク同一ニ爲スベカラザレバナリ

第三十八條 歳入ノ徴收若クハ經費ノ支出ヲ掌ル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ事務ニツキ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クベシ而シテ其故意又ハ過失怠惰ニ由リ政府ノ損失ヲ生ジタルモハ總テ私財ヲ以テ其金額辨償ノ責ヲ負フベシ
○説明 本條中歳入ノ徴收及經費ノ支出ヲ掌ル所ノ官吏トハ直接ニ徴收若クハ支出ノ事務ニ從事スル官吏ヲ指スモノニシテ現今ノ例ニ據レバ歳入中租税ニ於テハ郡長郡吏又其他ノ收入及經費ニ於テハ各會計主務官ヲ指ス其區分細目ニ至テハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ規定スベキ見込ナリ

第十章 雜則

第三十九條 事務ノ性質ニ由テ一般ノ歳計ニ編入セズ特別ノ會計ヲ立ルヲ必要トスルトキハ法律ヲ以テ定ムベシ其會計規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○説明 本條ハ備荒儲蓄金ノ如キ預金局ノ預金ノ如キ諸學校及諸作業廳ノ如キ類ハ其經濟ヲ政府一般ノ經濟ヨリ分離シ別ニ會計ヲ立ツルヲ便トスルヲ以テ如此ノ類ハ法律ヲ以テ經濟分離ヲ許可スルト定メタルナリ

第四十條 政府ハ期限ヲ定メテ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ得

第十一章 附則

第四十一條 本法施行前ニ生ジタル政府ノ權利義務ノ期滿免除ノ期限ハ特ニ本法施行ノ日ヨリ起算スベシ但特別ノ法律ニ據リ定メタルモノハ此限ニアラズ

第四十二條 本法ノ條項帝國議會ニ相關涉セザルモノハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス其議會ト關涉スルモノハ二十三年開會ノ時ヨリ施行ス
其議會ト關涉スルモノニシテ決算ニ係ル部分ハ議會ニ於テ豫算ノ承諾ヲ經タル年度ノ會計ヨリ施行ス

第四十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其條項施行ノ日ヨリ廢止ス

